作成日：　　2010 年 10 月 13 日
改訂日（V.6C）：2023 年 8 月 7 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：　**日農アグロスリン乳剤**

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名：　日本農薬株式会社
住　所：　〒104-8386 東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 8 号 京橋ＯＭビル
担当部門：　環境安全・品質保証部
TEL. 050-3490-3494
e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp
緊急連絡電話番号：（平日）　050-3490-3494 （環境安全・品質保証部）
（休日、夜間）　04-2929-8961 （ＡＬＳＯＫ）
推奨用途及び使用上の制限：農薬（殺虫剤）、農薬登録の範囲外の使用は不可
ＳＤＳ番号：　５０１－２４（Ｍ１０－１８）

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分３
健康有害性	急性毒性（経口）	区分４
	急性毒性（吸入－蒸気）	区分４
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分１
	皮膚腐食性/刺激性	区分２
	発がん性	区分２
	生殖毒性	区分１Ａ
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分１(腎臓、神経系、呼吸器系、肝臓) 区分３（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分１（神経系、呼吸器系）
環境有害性	水生環境有害性　短期(急性)	区分１
	水生環境有害性　長期(慢性)	区分１

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

ＧＨＳラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	引火性液体および蒸気 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 発がんのおそれの疑い

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
臓器（肝臓、腎臓、神経系、呼吸器系）の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（神経系、呼吸器系）の障害
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
防爆型の【電気機器/換気装置/照明機器/機器】を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。
容器を接地しアースをとること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
火花を発生させない工具を使用すること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
容器を密閉しておくこと。

【応急措置】
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(SDS 第 5 章参照)
漏出物を回収すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぎ、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：ただちに医師に連絡して、診察/手当を受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
特別な処置が必要である（「4. 応急措置」参照）。
汚染された衣類を脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】
容器を密閉して、換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。

【廃棄】
国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：混合物

有効成分

化学名（一般名）　(*RS*)-α-シアノ-3-フェノキシベンジル=(1*RS*,3*RS*)-(1*RS*,3*SR*)-3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート（シペルメトリン）

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	化審法番号	安衛法番号
シペルメトリン	6.0	52315-07-8	該当しない	4-(7)-992
有機溶剤､界面活性剤　等	94.0	非開示	非開示	非開示

危険有害成分

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	PRTR 法	安衛法 通知対象	毒劇法
シペルメトリン	6.0	52315-07-8	該当 *2	該当しない	該当
エチルベンゼン	54	100-41-4	該当	該当	該当しない
キシレン	30	1330-20-7	該当	該当	該当*1
灯油	1.0	非開示	該当しない	該当	該当しない
トルエン	0.88	108-88-3	該当*1	該当	該当*1

＊1：成分としては該当するが、製品中の濃度より製品としては該当しない。

＊2：化学物質排出把握管理促進法　第 2 種指定化学物質

4. 応急措置

吸入した場合：
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止している場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
鼻、口、喉を水でゆすぐ。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。

皮膚に付着した場合：
多量の水で洗うこと。
直ちに汚染された服と靴を取り除く/脱ぐ。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合は、医師の診察/手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：
眼を擦ってはならない。
まぶたを開いた状態に保つ。
できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：
直ちに医師の診断/手当てを受けること。
吐かせないこと。
口を水で十分にゆすぎ、意識を失っていない場合は多量の牛乳または水を飲ませる。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止している場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。

応急措置をする者の保護：
救助の際は保護具を着用する（「８．ばく露防止及び保護措置」を参照）。
人工呼吸には、逆流防止バルブのついたポケットマスクや他の適切な医療用呼吸器を用いる；口対口法を用いてはならない。

救助者は、救助の最中、自身の危険にも注意する。
本製品が発がん性物質/生殖毒性物質を含むことに注意する。

医師に対する特別な注意事項：　本剤による中毒の治療法としては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告がある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：　水、泡消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤：　棒状水

特有の危険有害性：　火災の熱などによる濃縮によって爆発するおそれがある。
加熱されたり火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。外部火災の熱によって、爆発的に分解するおそれがある。
混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）に留意して、適切な冷却手段にて容器を冷却する。
燃焼ガスおよび/または分解ガスには、刺激性、腐食性および/または毒性のガスが含まれるおそれがある。
火災の際は有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）が発生し、めまいや窒息や健康被害を引き起こすおそれがある。
消火水中に有害物が含まれ、環境や生物に影響を与えることがある。
消火しても充分冷却されていないと、再度発火するおそれがある。

特有の消火方法：　危険でなければ漏れを止める。
火災がとめられない場合は、火災の拡大・類焼を防止するために噴霧散水により冷却しながら燃焼させたままにする。
消火活動中に過熱された容器が爆発するおそれがある場合には退避する。
全ての方向に爆発の被害を被らないような適切な避難距離を取る。
燃え広がった場合は、人が近づいて消火してはならない。爆発のおそれがある。
積荷が熱にさらされている場合は、積荷を積載した車両は移動してはならない。
火災の過熱によって、容器が爆発するおそれがある場合は、安全な距離を確保して消火活動を行う。
風上から作業する。
安全な場所から消火する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
大規模火災で大量にある場合：区域より退避させ、十分に離れた距離から消火すること。
周辺の他の未燃可燃物の防護：可能かつ安全ならば、容器を移動させるか、散水などで冷却する。
外部火災からの製品防護：可能かつ必要がある場合は、製品の入った容器を安全な場所に移動させ、容器または周辺設備を水等で冷却する。
容器の移動の際は、衝撃や摩擦を与えないこと。
消火剤で表面を覆い窒息消火する。
消火に用いた水は堰を作って囲い、環境に配慮した上で廃棄する。物質がちらばらないようにする。

消火を行う者の保護：　適切な全身保護衣および空気式呼吸器（SCBA）を着用する。
防護面、ヘルメット、手袋を含む耐炎性防火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	人体に対する注意事項 適切な保護具（「８．ばく露防止及び保護措置」参照）を着用して、飛沫等の眼または皮膚への付着や、ミストまたは蒸気の吸入をしないようにする。 緊急処置 風下の人を退避させ、風上から作業する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 水路では安全が確認されるまで航行を遮断する。 周辺環境に、影響（健康被害を含む）を及ぼすおそれがある場合は、周辺の居住者に警告する。 付近の着火源となるものを、直ちに取り除く。 危険有害なガスが滞留するおそれがある場所を遮断する。（くぼ地、水路、等） 大きな安全地帯を設定する。 大量漏出の場合、蒸気を抑えるために泡を使用する。 大量の場合、噴霧散水は蒸気濃度低減に有効なことがある。 二次災害の防止策 全ての着火源（熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等）を取り除く。 適切な消火剤を準備する（「5. 火災時の措置」を参照）。 排水溝、下水溝、地下室、くぼ地あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
環境に対する注意事項：	環境中に放出しないこと。 漏出物が水系（河川や下水など）に流入して環境への影響を起こさないように、堤を作って堰止める。
封じ込め及び浄化の方法及び機材：	速やかに回収する。 危険でなければ漏れを止める。 広がらないように堰を作り、後で廃棄する。 残留液を乾燥した土、砂や不燃性材料で吸収させ、安全な場所に移す。 適切な吸収材に吸収させて回収する作業を繰り返し、全量を回収する。 防爆型の【電気機器/換気装置/照明機器/機器】を使用すること。 全ての着火源（熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等）を取り除く。 漏洩または漏出物を回収する場合は、専門家のアドバイスを求める。 残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。 回収作業は、安全取扱い（「7. 取扱い及び保管上の注意」参照）措置をしたうえで実施すること。廃棄方法は「13. 廃棄上の注意」を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策：	全ての着火源を取り除く。 静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。 防爆型の【電気機器/換気装置/照明機器/機器】を使用すること。 本製品から発生するガスや蒸気は、空気よりも重く、遠方着火あるいは健康被害や環境影響が発生するおそれがあるので、くぼ地、溝および排水溝等に流出させない。 ミストの発生を防止する。 漏洩ばく露に備えて、風上から作業する。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 設備対策を行い、保護具を着用する（「８．ばく露防止及び保護措置」参照）。

ミスト/蒸気を吸入しないこと。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。
休憩場所には、汚染された保護具を持ち込まないこと。
皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に適切な保護具を着用する。
可能な限り、使い捨ての保護衣を着用する。
汚染された保護衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護衣は安全な方法で廃棄すること。

局所排気、全体換気：　局所排気および/または全体換気を行う。
床に沿って換気する。

安全取扱注意事項：　混載危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）から離しておく。

衛生対策：　使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
密閉系で取り扱えない場合は、屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
本製品を吸入してはならない。
皮膚および眼との接触を避けること。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護具、作業衣等を処分する際は、周辺環境を汚染することがないように適切な方法を用いること。
取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。

保管

安全な保管条件：　耐火設備を備えた場所に保管する。
保管場所には、必要な採光または照明および換気の設備を設ける。
容器を密閉する。
施錠して保管すること。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
容器の静電気対策(アースやボンディングされた導電性床上での保管、等）を講じる。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
積荷又はパレット間に隙間をあけること。
暗所に保管すること。
冷所に保管。
換気の良い涼しい場所で保管すること。
排水管や下水管へのアクセスのない場所で貯蔵する。
「10. 安定性及び反応性」を参照。
乾燥した場所で密閉容器に保管すること。

安全な容器包装材料：　情報無し

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別ばく露限界/許容濃度

成分	CAS 番号	指標(ばく露形態)	管理濃度/許容濃度	出典
エチルベンゼン	100-41-4	ACL	20 ppm	安衛法（管理濃度）
		OEL-M	50 ppm 217 mg/m^3	日本産業衛生学会 （許容濃度）
		TWA	20 ppm	ACGIH
		詳細情報：第 2 群：ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断される物質		

キシレン	1330-20-7	ACL	50 ppm	安衛法（管理濃度）
		OEL-M	50 ppm 217 mg/m^3	日本産業衛生学会 （許容濃度）
		詳細情報：第 2 群：ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断される物質		
		TWA	100 ppm	ACGIH
		STEAL	150 ppm	ACGIH
トルエン	108-88-3	ACL	20 ppm	安衛法(管理濃度)
		OEL-M	50 ppm 188 mg/m^3	日本産業衛生学会 （許容濃度）
		詳細情報：第 1 群：ヒトに対して生殖毒性を示すことが知られている物質。経皮吸収		
		TWA	20 ppm	ACGIH

生物学的職業ばく露濃度

成分	CAS 番号	対象物質	生物学的試料	試料採取時期	許容濃度	出典
エチルベンゼン	100-41-4	マンデル酸及びフェニルグリオキシル酸の合計	尿	シフト終了時（ばく露停止後できるだけ早く）	0.15 g/g クレアチニン	ACGIH BEI
キシレン	1330-20-7	総メチル馬尿酸（o-,m-,p-三異性体の総和）	尿	週の後半の作業終了時	800 mg/l	日本産業衛生学会
		メチル馬尿酸	尿	シフト終了時（ばく露停止後できるだけ早く）	1.5 g/g クレアチニン	ACGIH BEI
トルエン	108-88-3	トルエン	血液	週の後半の作業終了前 2 時間以内	0.6 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	尿	週の後半の作業終了前 2 時間以内	0.06 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	血液中	労働週の最終シフト前	0.02 mg/l	ACGIH BEI
		トルエン	尿	シフト終了時（ばく露停止後できるだけはやく）	0.03 mg/l	ACGIH BEI
		o-クレゾール	尿	シフト終了時（ばく露停止後できるだけはやく）	0.3 mg/g クレアチニン	ACGIH BEI

設備対策： 吸収装置を備えた局所排気装置および/または全体換気装置を使用する。
取扱場所に、手洗い設備、洗身洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具： 呼吸用保護具は、適切な保護具を使用する。
緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器（SCBA）を着用する。
防毒マスク

手の保護具： 手の保護具は、適切な保護具を使用する。
不浸透性保護手袋

眼の保護具：	眼の保護具は、適切な保護具を使用する。 安全ゴーグルまたは保護眼鏡付き防災面。
皮膚及び身体の保護具：	個人用保護具（PPE）は、適切な保護具を使用する。 帽子、靴、合羽等を含む適切な不浸透性保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：	液体
色：	淡黄色澄明
臭い：	データなし
融点/凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	
爆発範囲の上限/可燃上限値：	データなし
爆発範囲の下限/可燃下限値：	データなし
引火点：	24.5℃（エチルベンゼン）
分解温度：	データなし
ｐＨ：	データなし
蒸発速度：	データなし
自然発火温度：	データなし
粘度	
動粘度(動粘性率)：	データなし
溶解度	
水溶性：	データなし
溶媒に対する溶解性：	データなし
n-オクタノール/水分配係数（log 値）：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び/又は相対密度	
比重：	0.89-0.92
密度：	データなし
相対ガス密度：	データなし
粒子特性	
粒子サイズ：	データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性：	通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性：	熱、化学反応、摩擦、または打撃によって分解が始まり、急激な温度上昇と圧力上昇をもたらすおそれがある。 加熱されると分解して、容器の破損に至るおそれがある。 加熱されると分解して、火災や爆発に至るおそれがある。 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する可能性がある。 ミストは、温度によらず空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。 裸火、機械火花、電気火花、溶接火花、高温表面、摩擦熱、静電気放電、塩基：火災や爆発のおそれ、加熱、機械的衝撃、酸化剤、酸：火災、爆発、および有毒ガスの発生のおそれ

避けるべき条件：　裸火、機械火花、電気火花、溶接火花、加熱、高温表面、静電気放電、機械的衝撃
混触禁止物質：　酸、塩基、酸化剤
危険有害な分解生成物　一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素、すす、窒素酸化物、アンモニア、塩化水素、塩素化合物、シアン化物類、シアン化水素

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報：
経口、吸入、経皮、眼

製品のデータがない場合は 類似製品/成分 のデータを記載しています。

急性毒性
経口：　ラット ： LD_{50} 1,580 mg/kg
マウス ： LD_{50} 705 mg/kg
経皮：　ラット ： LD_{50} > 5,000 mg/kg
吸入：　データなし
シペルメトリン　粉じん/ミスト ： ラット ： LC_{50} （4 h） > 254 mg/m^3
キシレン　蒸気 ： （4 h） ATEmix: 4222 ppm（換算値 18.3 mg/l（1 気圧 25℃））
皮膚刺激性/刺激性：　ウサギ：中等度の刺激性あり
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性：　ウサギ：強度の刺激性あり
呼吸器感作性/皮膚感作性：　モルモット 皮膚感作性 （ビューラー法） ： 感作性なし
生殖細胞変異原性：
in vitro：　データなし
シペルメトリン　Ames 試験 （ネズミチフス菌および大腸菌） ： 陰性
染色体異常試験 （チャイニーズハムスター細胞） ： 陰性
遺伝子修復試験 （枯草菌） ： 陰性
in vivo：　データなし
シペルメトリン　染色体異常試験 （ハムスター、経口、骨髄） ： 陰性
発がん性:　データなし
シペルメトリン　ラット 発がん性試験 （混餌） ： 発がん性なし
マウス 発がん性試験 （混餌） ： 発がん性なし
エチルベンゼン　ラット 発がん性試験 （吸入） ： 発がん性あり （腎臓）
マウス 発がん性試験 （吸入） ： 発がん性あり （肝臓, 肺）
専門家判断：
エチルベンゼン　日本産業衛生学会: 2B （ヒトに対して恐らく発がん性があると考えられる物質（証拠が比較的十分でない））
ACGIH: A3 （実験動物で発がん性が認められているが、ヒトとの関連は不明）
IARC: 2B （ヒトに対して発がん性があるかもしれない）
灯油　ACGIH: A3 （実験動物で発がん性が認められているが、ヒトとの関連は不明）
生殖毒性:
繁殖性：　データなし
シペルメトリン　ラット 繁殖毒性試験 （混餌） ： 繁殖性に影響なし
催奇形性：　データなし
シペルメトリン　ウサギ 催奇形性試験 （経口） ： 催奇形性なし
ラット 催奇形性試験 （経口） ： 催奇形性なし
キシレン　マウス 生殖発生毒性試験 ： 催奇形性あり
トルエン　ラット 催奇形性試験 ： 催奇形性あり
マウス 催奇形性試験 ： 催奇形性あり

	ヒト 疫学情報 ： 催奇形性あり
	ウサギ 催奇形性試験（吸入）：催奇形性なし、胚胎児致死作用なし
	ヒト 臨床報告（吸入）： 出生児に対する影響あり
	ヒト 疫学情報（吸入）： 胚胎児致死作用あり
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	
	ラット （経口）： 神経系
	マウス （経口）： 神経系
キシレン	ラット （経皮）： 特定標的臓器は認められない。
	ヒト ((吸入))： 呼吸器系、肝臓、中枢神経系、腎臓、麻酔作用、気道刺激性
特定標的臓器（反復ばく露）：	データなし
シペルメトリン	ラット 90 日間反復ばく露試験 （混餌）： 血液
	イヌ 90 日間反復ばく露試験 （混餌）： 神経系
キシレン	ヒト ： 呼吸器系、神経系
誤えん有害性：	データなし
キシレン	化学性肺炎を引き起こすことがある
エチルベンゼン	化学性肺炎を引き起こすことがある

12. 環境影響情報

製品のデータがない場合は 類似製品/成分 のデータを記載しています。

水生生物（急性毒性）：	
魚類：	コイ：LC_{50}（96hr） 0.0171 mg/L
甲殻類：	データなし
シペルメトリン	ミジンコ：EC_{50}（48h） 0.0014 mg/L
藻類：	緑藻:ErC_{50}（24-72h） > 100 mg/L
水生生物(慢性毒性)：	データなし
魚類：	データなし
甲殻類：	データなし
藻類：	緑藻:NOECr（24-72 h） 10 mg/L
その他：	蚕に長期間毒性がある。 ミツバチに対して影響がある。
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	国際規制 - オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書のためのハンドブックに掲載なし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号(UN number)： UN1993

正式輸送品目名

(Proper shipping name)： 引火性液体、n.o.s. （キシレン混合物）

国連分類(Class)：	3
容器等級(Packing group)：	Ⅲ
ラベル(Labels)：	3

航空輸送(IATA-DGR)	
国連番号(UN number)：	UN1993
正式輸送品目名 (Proper shipping name)：	引火性液体、n.o.s. （キシレン混合物）
国連分類(Class)：	3
容器等級(Packing group)：	Ⅲ
ラベル(Labels)：	Flammable Liquids

梱包指示(貨物機) (Packing instruction (cargo aircraft))：	366
梱包指示 (旅客機) (Packing instruction (passenger aircraft))：	355

海上輸送(IMDG-Code)	
国連番号(UN number)：	UN1993
正式輸送品目名 (Proper shipping name)：	引火性液体、n.o.s. （キシレン混合物）
国連分類(Class)：	3
容器等級(Packing group)：	Ⅲ
ラベル(Labels)：	3
EmS コード(EmS Code)：	F-E, S-E
海洋汚染物質(該当・非該当) (Marine pollutant) ：	該当
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)：	供給された状態の製品には非該当。

緊急時応急措置指針番号：	128

国内規制	国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策	
備考：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輌、船舶には保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規制の変更により、変更される可能性があります。

15. 適用法令

関連法規	
消防法：	第 4 類, 第二石油類、非水溶性液体

労働安全衛生法：
製造等が禁止される有害物
非該当
製造の許可を受けるべき有害物：
非該当
健康障害防止指針公表物質
エチルベンゼン
変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）：
非該当
変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）：
非該当
名称等を通知すべき危険物及び有害物
法第 57 条の 2（施行令別表第 9）
エチルベンゼン
キシレン
灯油
トルエン
名称等を表示すべき危険物及び有害物
法第 57 条（施行令第 18 条）
エチルベンゼン
キシレン
灯油
トルエン
特定化学物質障害予防規則-第二類物質
エチルベンゼン
鉛中毒予防規則：
非該当
四アルキル鉛中毒予防規則：
非該当
有機溶剤中毒予防規則
第二種有機溶剤等
労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）
引火性の物

毒物及び劇物取締法：
劇物
(*S*)-α-シアノ-三-フエノキシベンジル=(一 R·三 R)-三-(二·二-ジクロロビニル)-二·二-ジメチルシクロプロパン一カルボキシラートと(*R*)-α-シアノ-三-フエノキシベンジル=(一 S·三 S)-三-(二·二-ジクロロビニル)-二·二-ジメチルシクロプロパン一カルボキシラートとの等量混合物を含有する製剤 （シペルメトリン）

化学物質排出把握管理促進法：
第 1 種指定化学物質
エチルベンゼン
キシレン
第 2 種指定化学物質
アルファ-シアノ-3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート（シペルメトリン）

高圧ガス保安法：
非該当
火薬類取締法：
非該当
船舶安全法：
危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1：引火性液体類
航空法：
施行規則第 194 条危険物告示第 1：引火性液体
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律
個品輸送：
海洋汚染物質

廃棄物の処理及び清掃に関する法律：	特別管理産業廃棄物 有害物質（法第２条、施行令第２条、排水基準を定める省令第１条）
水質汚濁防止法：	（シアン化合物） 水質基準物質（法第１２条の２第２項、施行令第９条の４）（シアン
下水道法：	化合物）
土壌汚染対策法：	特定有害物質（法第２条第１項、施行令第１条）（シアン化合物）
農薬取締法：	農薬

16. その他の情報

参考資料： 安全データシート「アグロスリン乳剤」（住友化学株式会社 2022 年 11 月 1 日改訂）

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。